

第3章 アンケート調査結果と分析

アンケート調査結果からみた地域福祉に関する住民の意識や実態の分析、前回調査との経年比較を行いました。アンケート調査結果については平成23年度に実施した調査結果とあわせて掲載し、平成28年度に新しく設けた設問については平成28年度のみ掲載しています。

また資料編に用語説明(P85～88)を掲載しています。

(1) 調査の目的

本調査は、地域福祉に関する意識、ニーズ、課題などを把握するとともに、第2期策定時において実施したアンケート調査と比較し、第3期地域福祉計画の基礎資料とすることを目的としています。

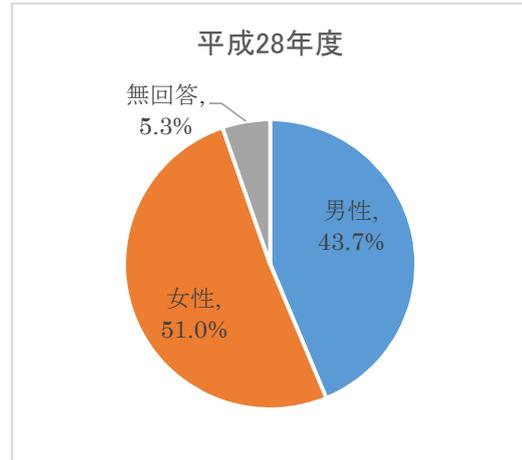
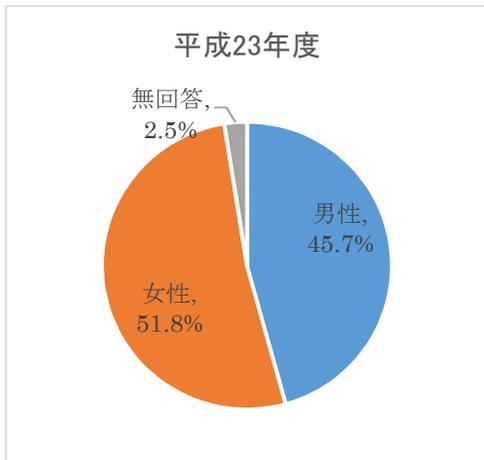
(2) 調査の概要

	前回調査	今回調査
調査期間	平成 23 年 8 月	平成 28 年 12 月～平成 29 年 1 月
調査対象	20 歳～85 歳までの町内在住者	20 歳～85 歳までの町内在住者
対象数	400 人	400 人
抽出方法	層化無作為抽出 (年代、性別、居住区ごとの層化)	層化無作為抽出 (年代、性別、居住区ごとの層化)
調査方法	郵送配布、郵送回収	郵送配布、郵送回収
回収数 (回収率)	197 人 (49.3%)	151 人 (37.8%)

■回答者 基礎データ

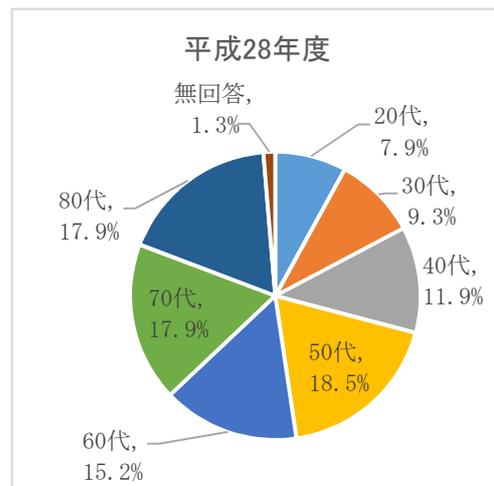
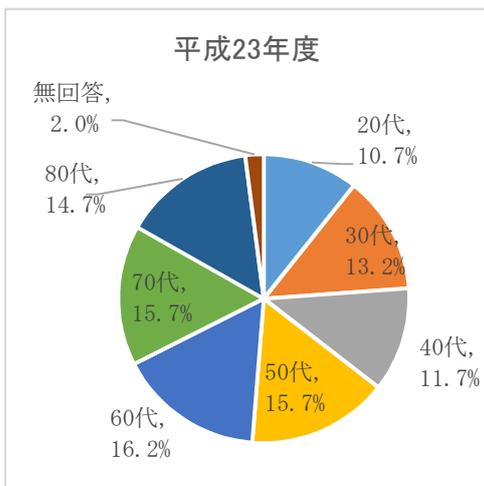
【性別】

回答者の男女の比率は男性 43.7%、女性 51.0%と前回調査と大きな差はありませんでした。



【年齢】

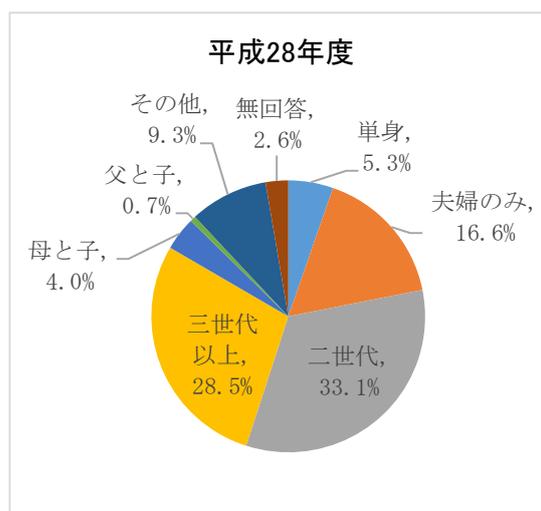
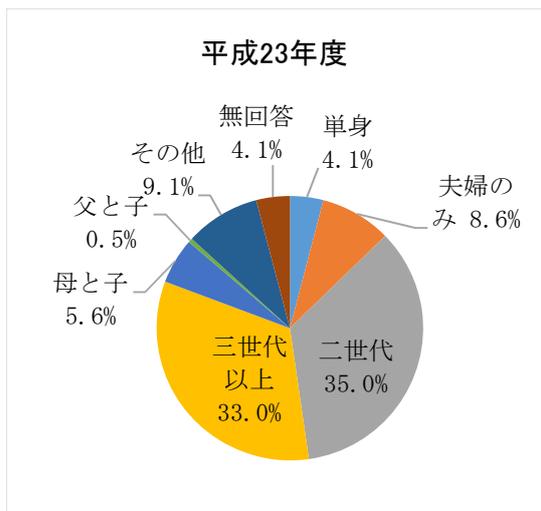
年齢については、50代、70代、80代で前回調査よりわずかに割合が増え、40代では割合がほとんど前回と変わりませんでした、20代、30代、60代はわずかに減りました。



【家族構成】

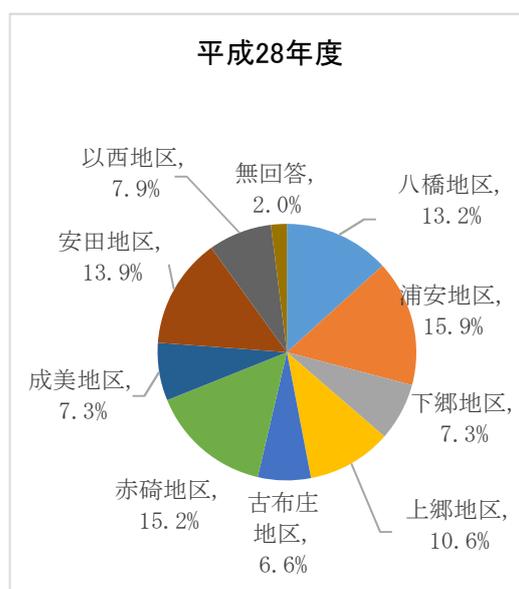
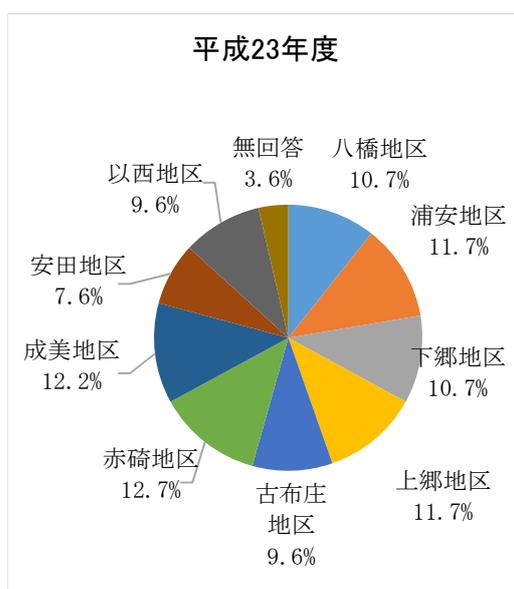
回答者の家族構成については、単身が 5.3%と前回調査(4.1%)よりわずかに増え、夫婦のみは 16.6%と前回調査(8.6%)の 2 倍近く割合が増えています。

また二世帯は 33.1%と前回調査(35.0%)よりわずかに減り、三世帯は 28.5%と前回調査(33.0%)よりも減っています。また母と子の世帯は 4.0%と前回調査(5.6%)からわずかに減り、父と子は前回調査からほとんど変化はありませんでした。



【居住地】

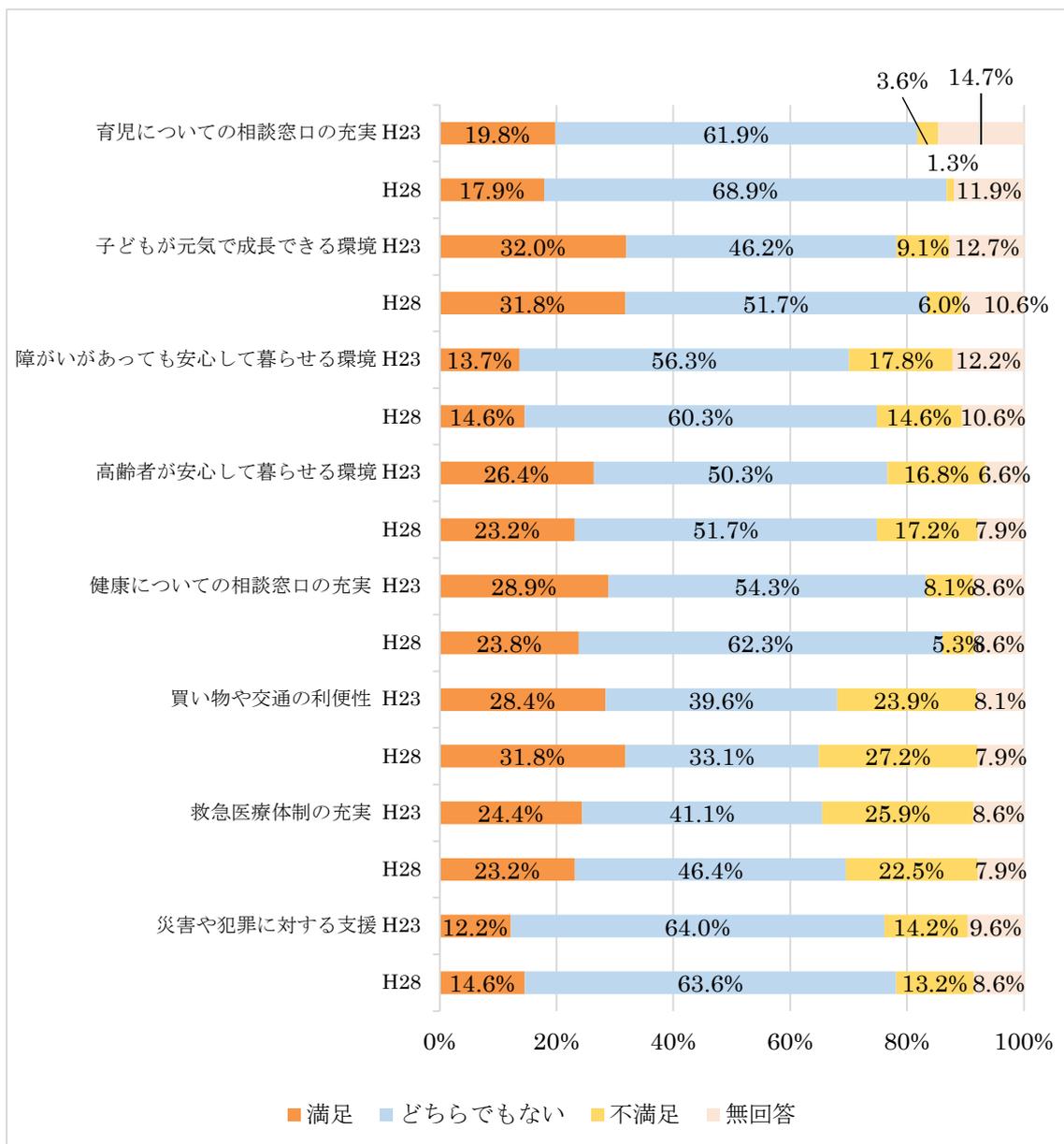
回答者の居住地については、八橋地区、浦安地区、赤碕地区、安田地区の占める割合が前回調査よりわずかに増えています。



■地域福祉全般について

【問1】 あなたの周りの暮らしの環境について満足度はいかがですか

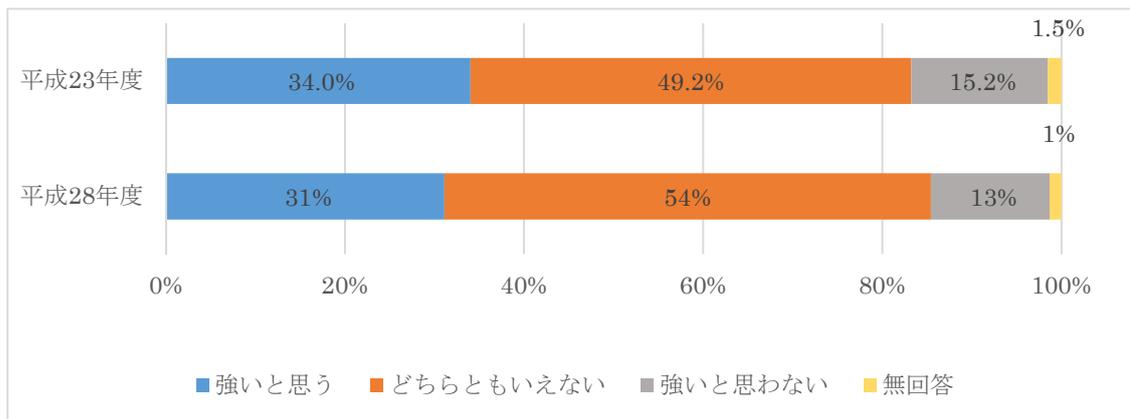
暮らしの環境への満足度については、大きな変化は見られませんでした。ほとんどの項目で前回調査より「どちらともいえない」が増えています。「買い物や交通の利便性」については、「満足」と「不満足」のいずれもわずかに増えています。それ以外では、「障がいがあっても安心して暮らせる環境」「災害や犯罪に対する支援」の項目で「満足」がわずかに増えており、「高齢者が安心して暮らせる環境」で「不満足」がわずかに増えています。



■地域との関わりについて

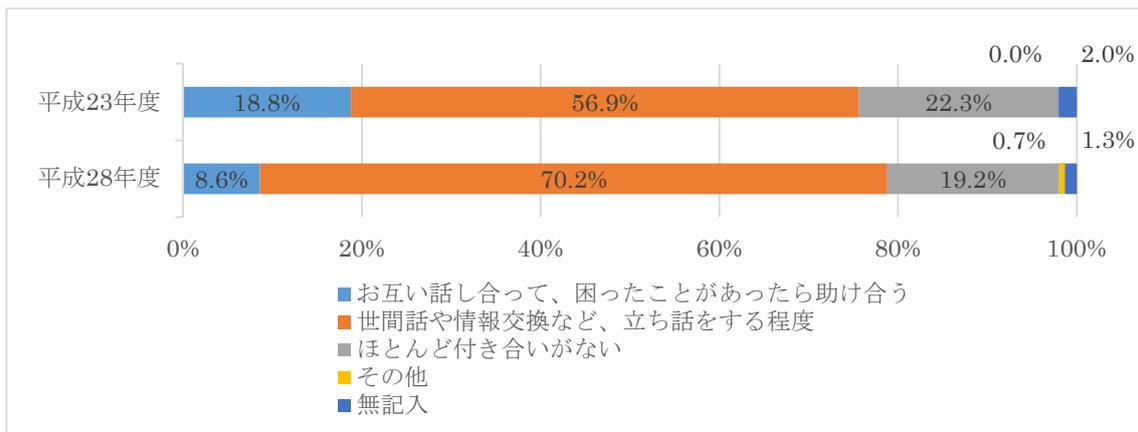
【問2】 あなたの暮らしている地域では住民同士が協力し、支え合う意識が強いと思いますか。

地域のつながりについて、「強いと思う」「強いと思わない」がそれぞれ前回調査よりわずかに減っており、「どちらともいえない」(54%)が増えています。



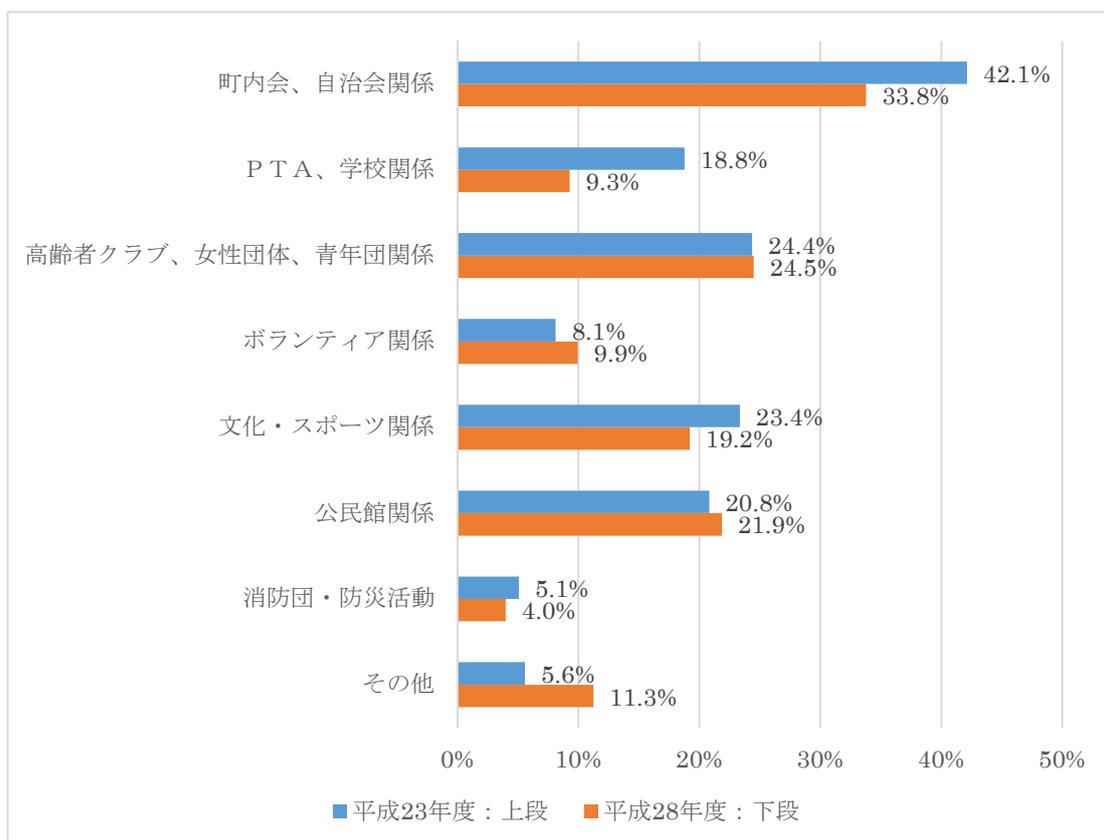
【問3】 あなたは近所の人とどの程度お付き合いがありますか。

「お互い話し合って、困ったことがあったら助け合う」は 8.6%と前回調査(18.8%)から大きく減っており、「世間話や情報交換など立ち話をする程度」が 70.2%と前回調査(56.9%)より大きく増えています。このことから、傾向として何でも相談し合う関係が薄れ、ゆるやかな近所付き合いが増えていることがうかがえます。



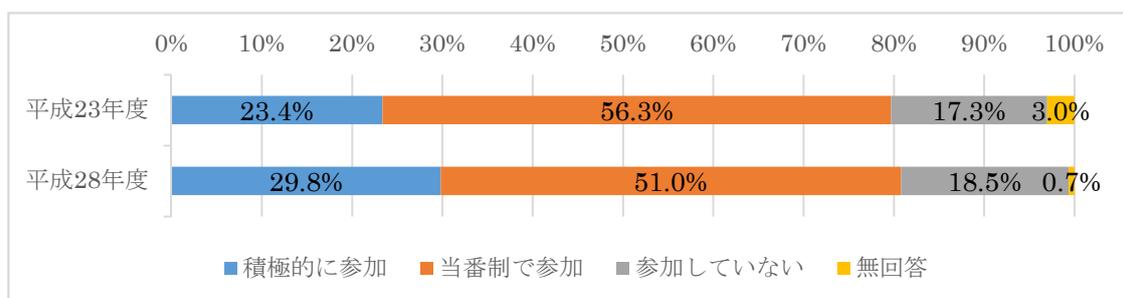
【問4】 あなたが現在参加している地域活動はどのようなものですか

参加している地域活動として「町内会、自治会関係」が 33.8%と最も多く、次いで「高齢者クラブ、女性団体、青年団関係」24.5%となっています。また、「町内会、自治会」、「PTA、学校関係」が前回調査より大きく減っています。また「ボランティア関係」と「公民館関係」で微増となっています。



【問5】 あなたは地域での行事や活動にどのように参加していますか

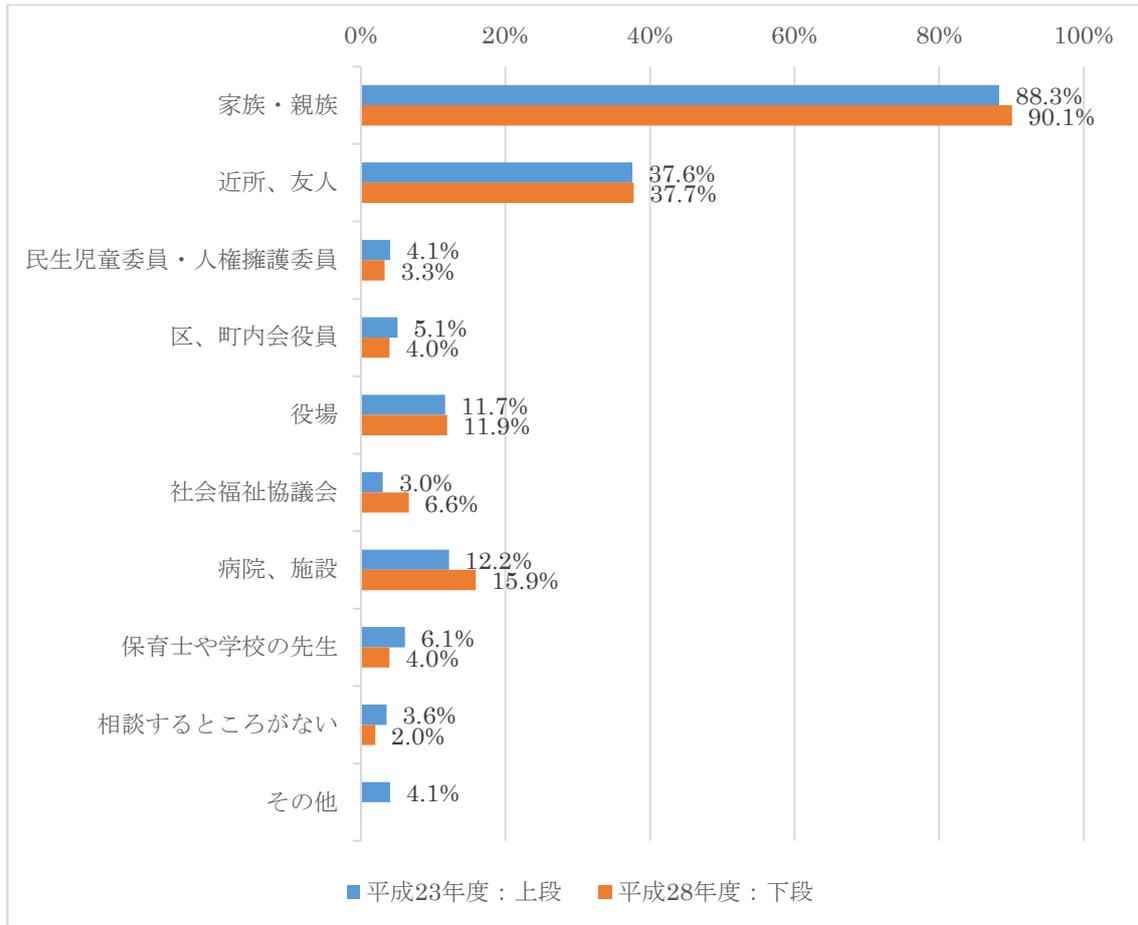
地域活動の参加状況については「当番制で頼まれて参加している」が 51%と約半数を占めています。また「積極的に参加」が 29.8%と前回調査(23.4%)より増えています。



■地域の支え合いについて

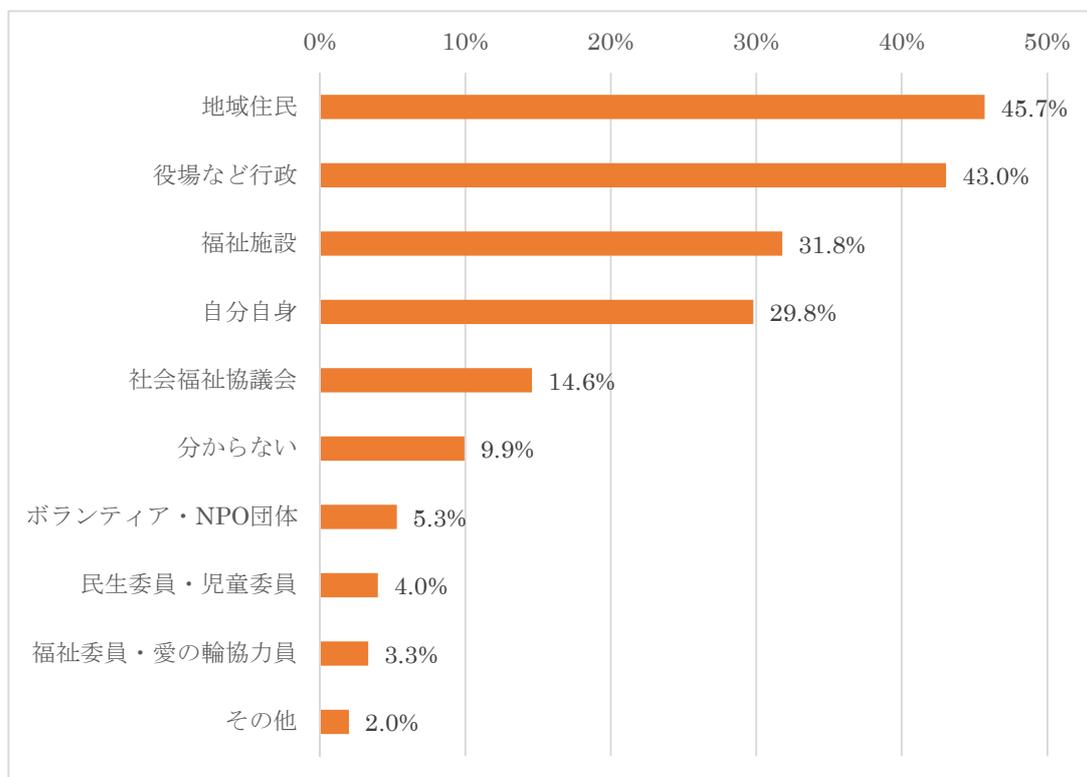
【問6】 あなたは困っているとき、誰(どこ)に相談しますか。

困ったときの相談先として「家族・親族」が 90.1%と最も多く、次いで「近所・友人」37.7%となっており、前回調査と変わらず、多くの人が身近な人に相談をしていることが分かります。また「社会福祉協議会」「病院、施設」が前回調査より増えています。



【問7】 これからの福祉を支えていくのは誰(どこ)だと思いますか。

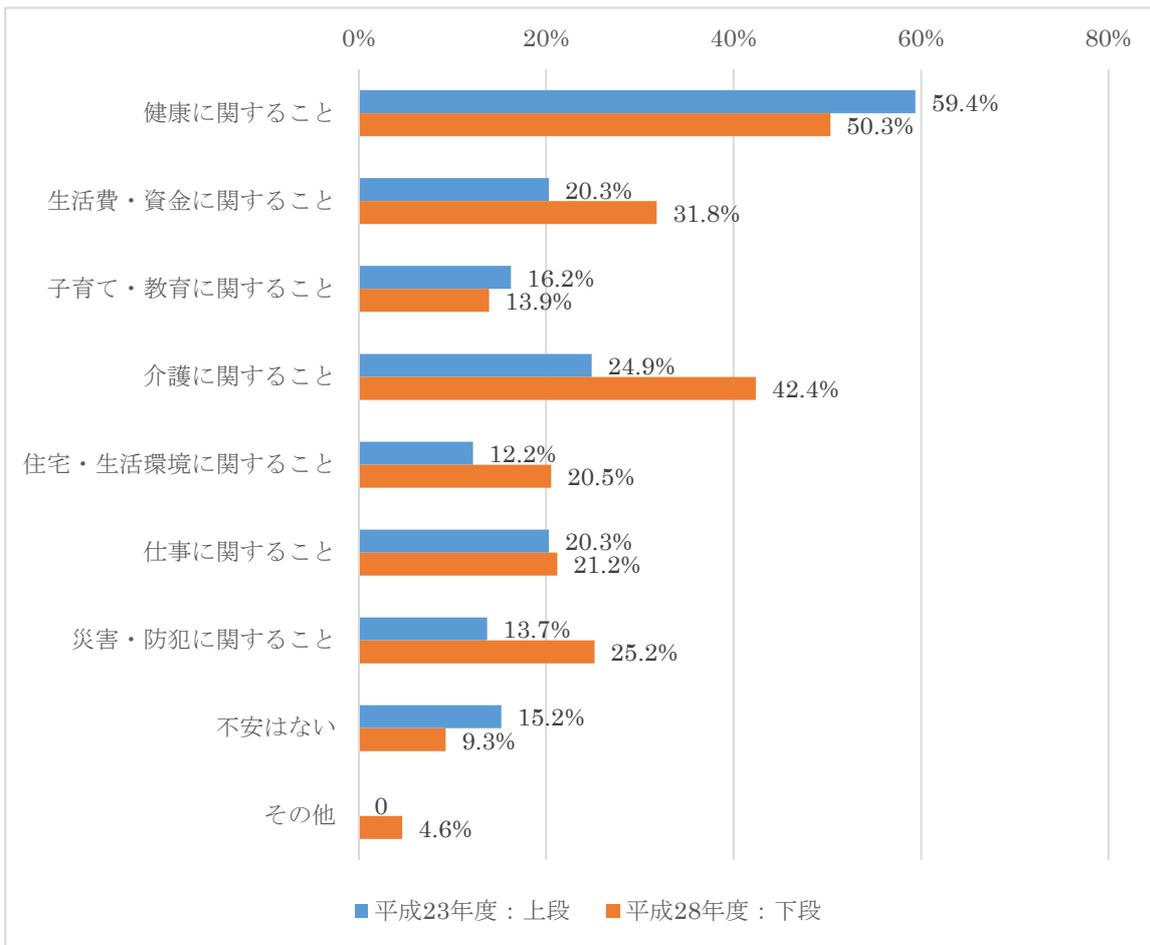
これからの福祉の担い手については「地域住民」が 45.7%と最も高く、次いで「役場などの行政」43.0%、次いで「福祉施設」31.8%、「自分自身」29.8%が続いています



(平成 28 年のみ)

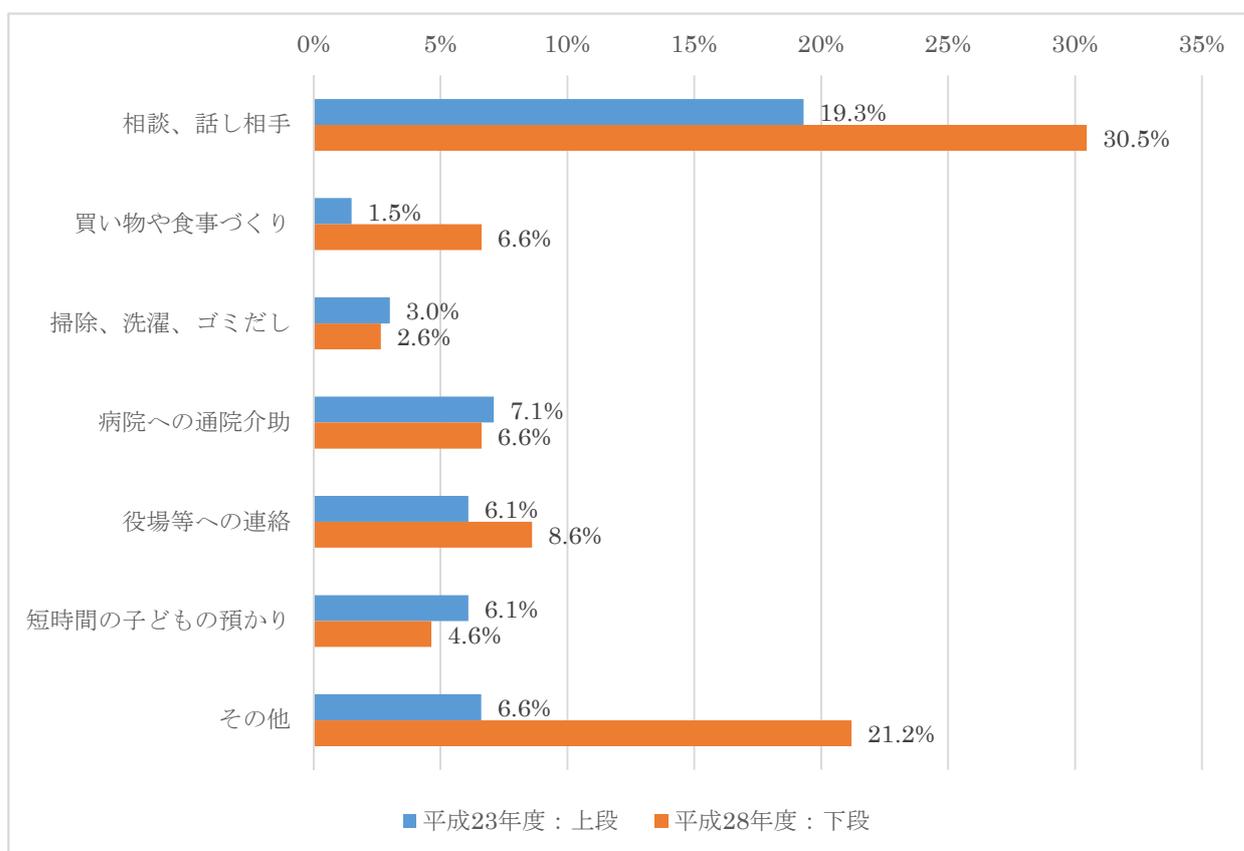
【問8】 あなたが普段困っていることや不安に思っていることは何ですか。

「生活費・資金に関すること」31.8%、「介護に関すること」42.4%、「住宅・生活環境に関すること」20.5%、「災害・防犯に関すること」25.2%が前回調査より大きく増えており、「健康に関すること」50.3%、「子育て・教育に関すること」13.9%では減っていますが、全体として生活に対する困りごとや不安感が増えていると考えられます。



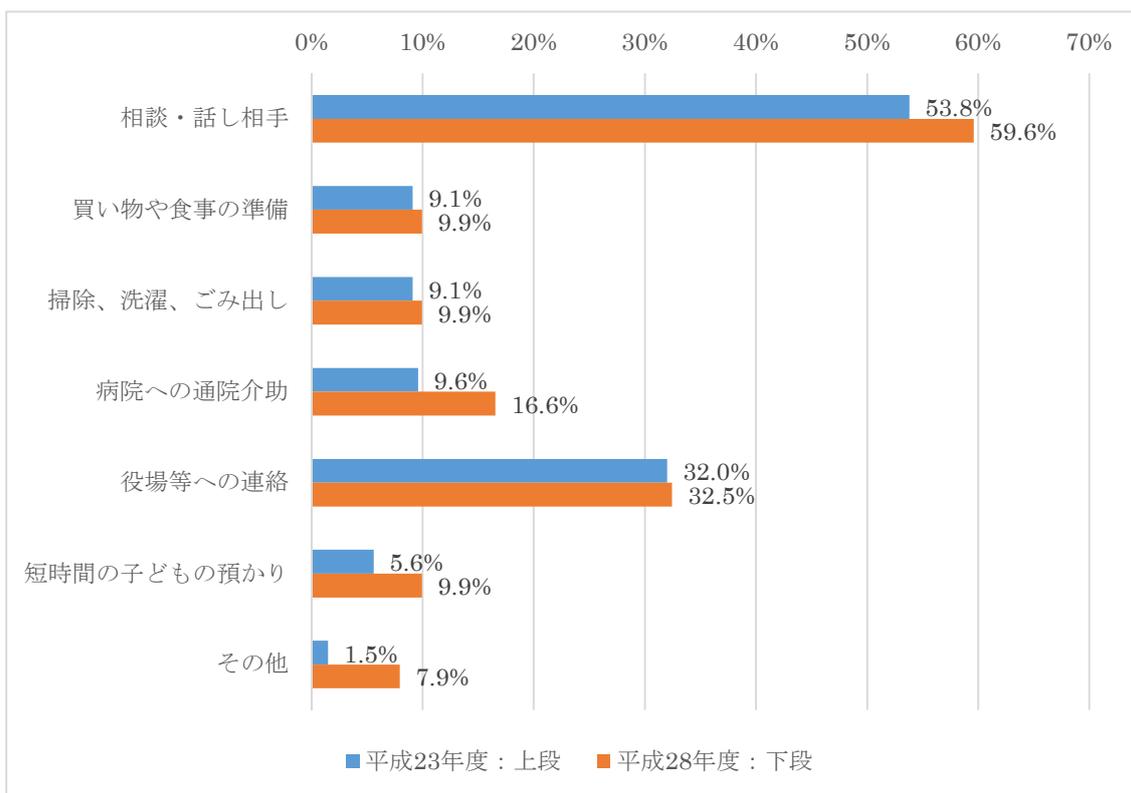
【問9】 あなたが日ごろ困っていて、地域の人に関わってもらいたいことは何ですか。

関わってもらいたいこととして、「相談、話し相手」が30.5%と最も多く、また前回調査(19.3%)から大きく増えています。また「買い物や食事づくり」、「役場等への連絡」も増えています。「その他」21.2%の内容としては「現在のところは自立しているのではない」「特になし」といった回答がほとんどでしたが、除雪や農地の維持管理、また今は自立しているが何かあったときに日常生活が困難になるとの意見もみられました。



【問10】 あなたの近所で困っている方に、どのような手助けをしたい(できる)と思いますか。

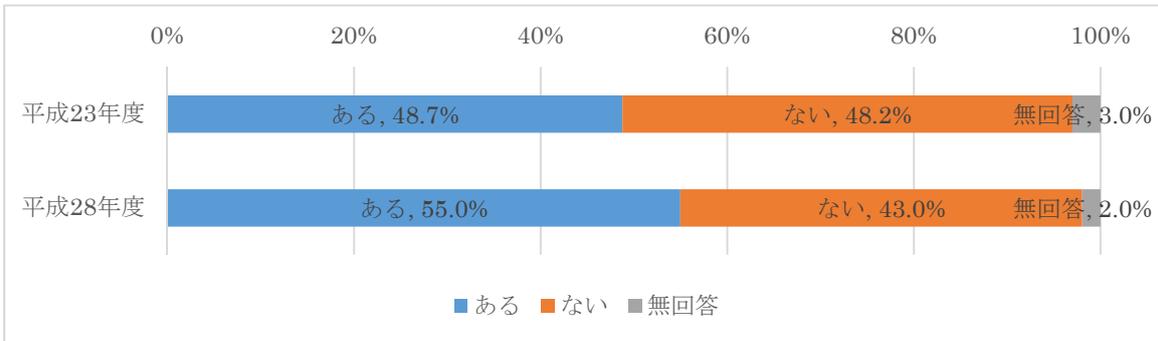
「相談・話し相手」が 59.6%と最も高く、次いで「役場等への連絡」32.5%となっています。また「その他」7.9%の回答の内容は「できない」「高齢であるためできない」がほとんどでしたが、散歩、外気浴の見守り、地域交流への声かけや力仕事という回答もありました。



■ボランティア活動について

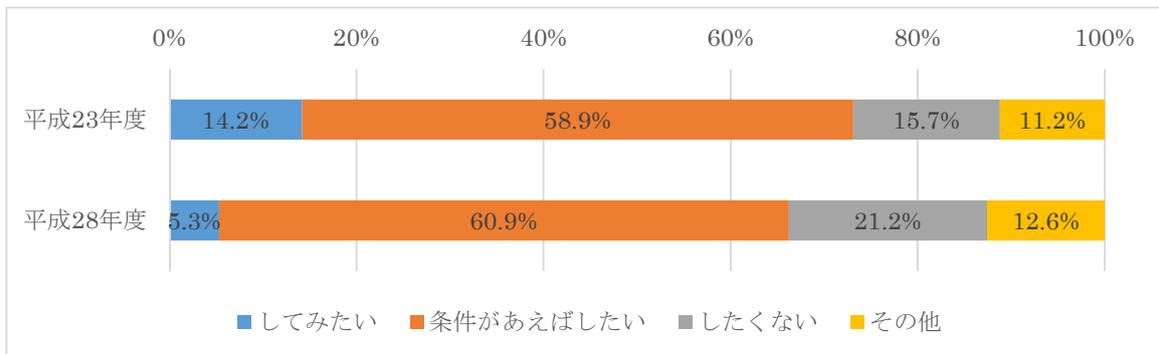
【問11】 あなたはボランティア活動をしたことがありますか。

ボランティア活動について、「したことのある」が 55.0%と半数以上で前回調査（48.7%）より増えています。



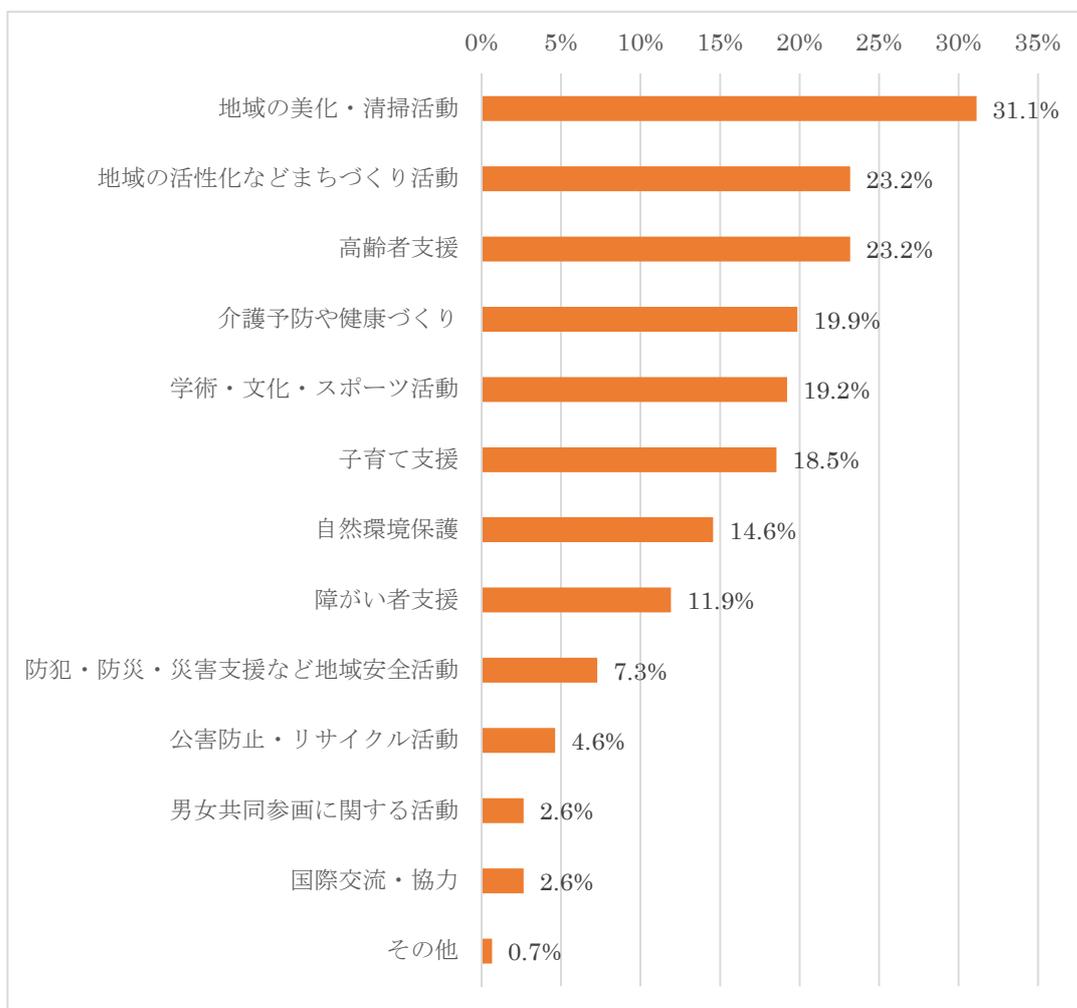
【問12-1】 今後、ボランティア活動に参加してみようと思いますか。

ボランティア活動の参加については「してみたい」が減り、「したくない」が増えています。また、「条件があえばしたい」が6割を占め、なにかしらのマッチングが重要と思われます。



【問12-2】「問12-1」で「してみたい」または「条件が合えばしたい」を選択された方へ質問です。もしあなたがボランティア活動に参加されるとしたら、どんな活動に参加したいですか。

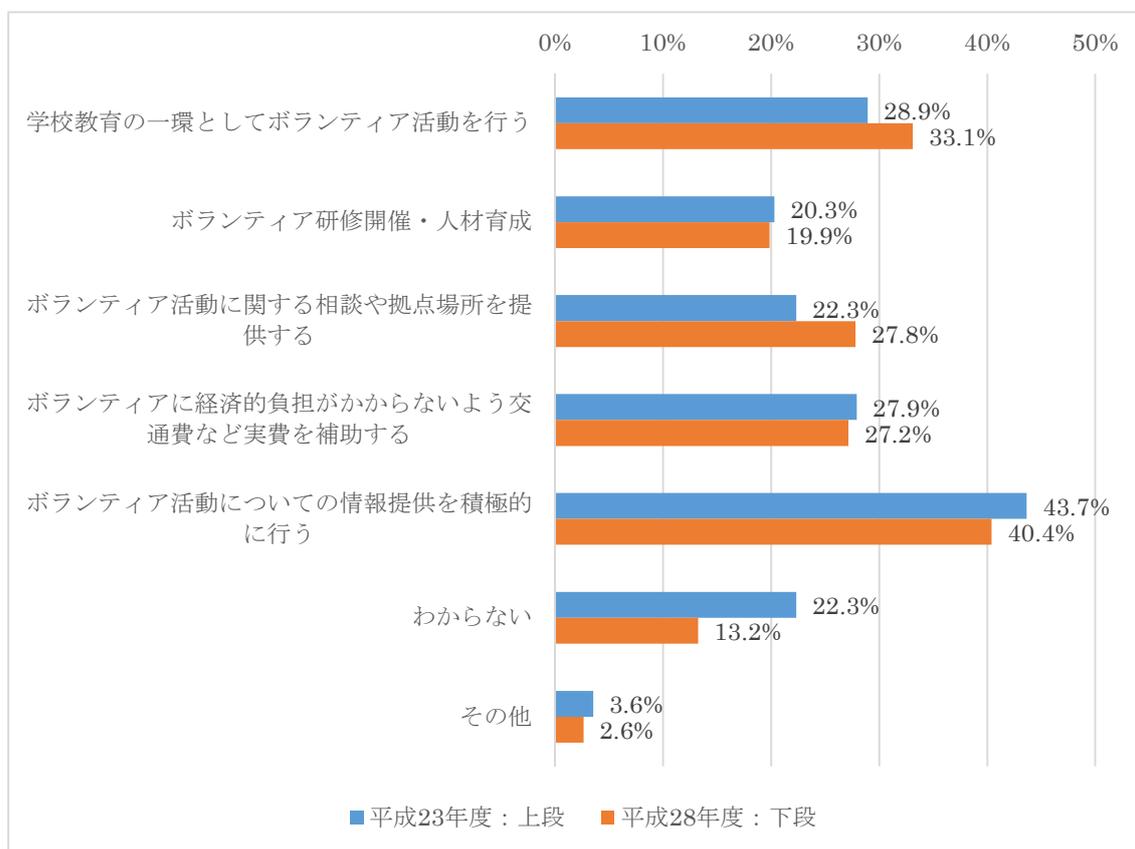
「地域の美化・清掃活動」が 31.1%と最も多く、次いで「地域の活性化などまちづくり活動」「高齢者支援」となっています。



(平成28年のみ)

【問13】 ボランティア活動の推進に必要なことは何だと思いますか。

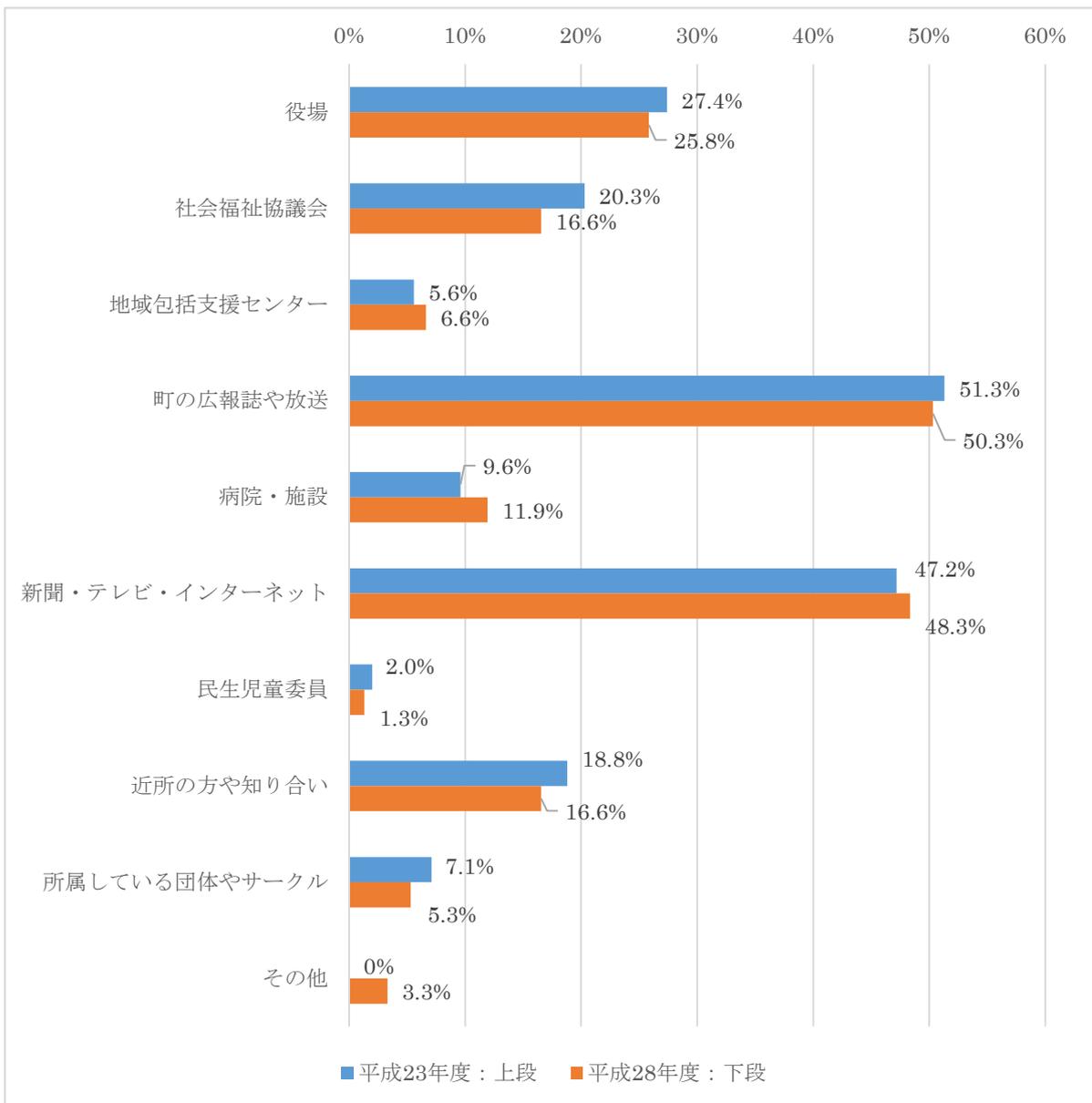
「ボランティア活動についての情報提供を積極的に行う」が 40.4%と最も高く、次いで「学校教育の一環としてボランティア活動を行う」33.1%となっています。



■地域福祉のあり方・福祉制度について

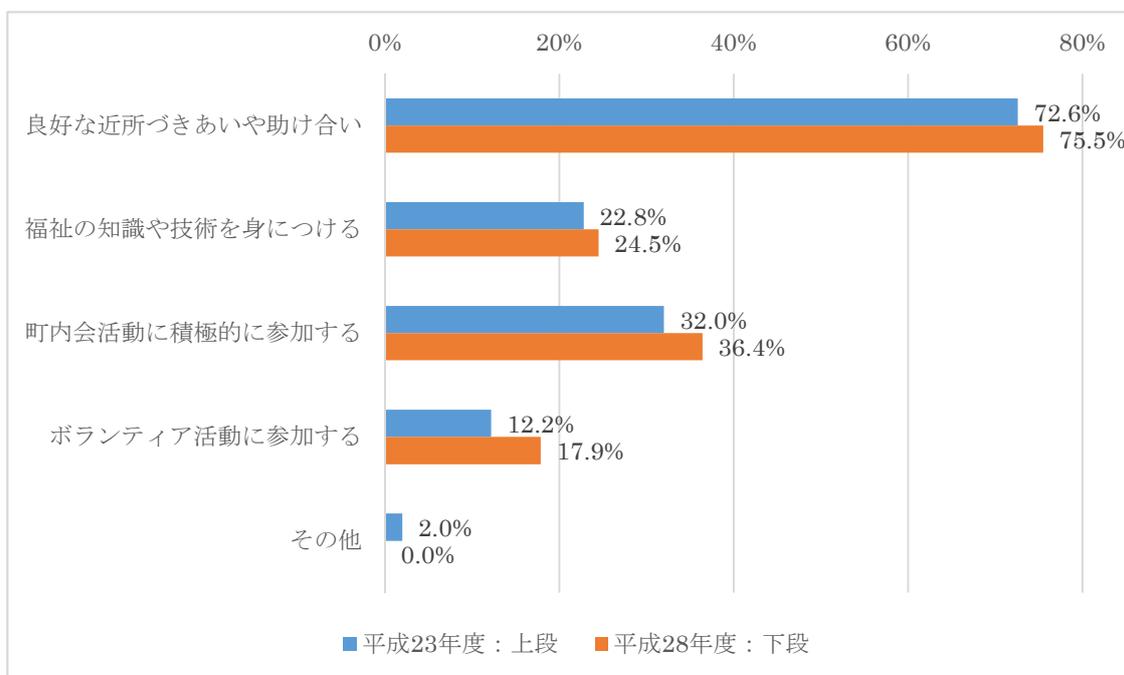
【問14】 あなたは福祉に関する情報や知識をどこから得ていますか。

福祉に関する情報源については前回調査と同じく、「町の広報誌や放送」(50.3%)が最も高く、次いで「新聞・テレビ・インターネット」(48.3%)となっています。前回調査から割合が増えたものとして、「新聞・テレビ・インターネット」、「病院・施設」、「地域包括支援センター」が挙げられ、それ以外のものは割合が減っています。



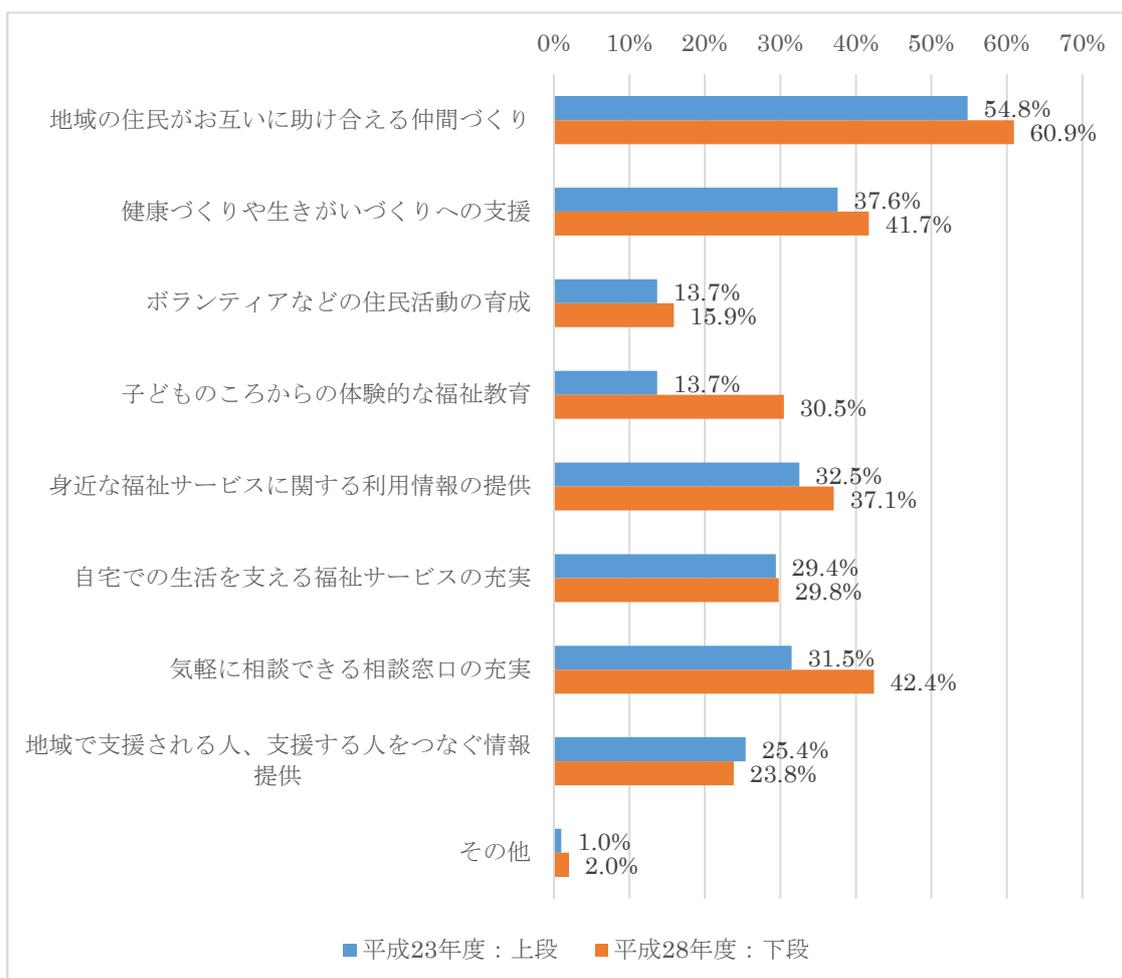
【問15】 これからの地域福祉にむけて町民一人ひとりはどうのようなことに取り組むべきだと考えますか。

「良好な近所づきあいや助け合い」が 75.5%と多く、住民相互の助け合いが必要との意識が高いことがうかがえます。



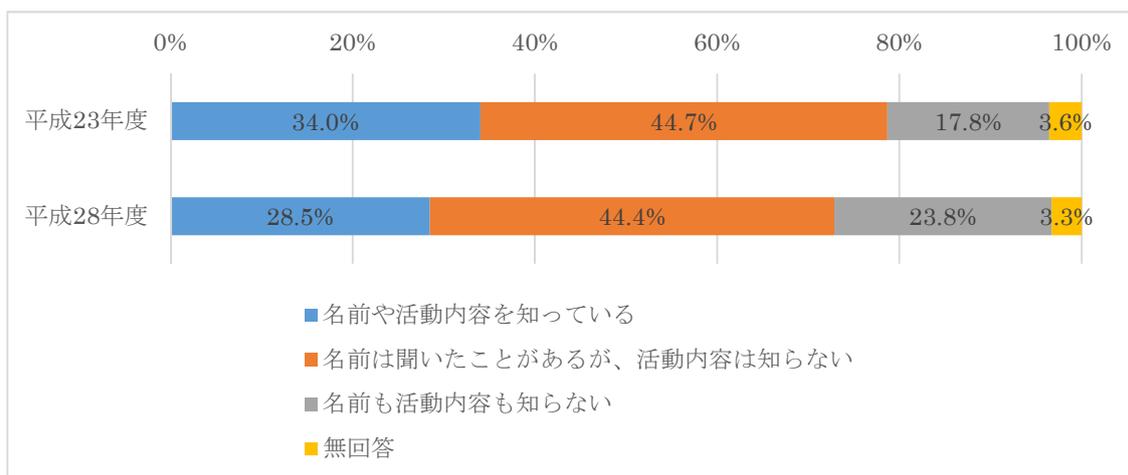
【問16】 これからの福祉で何に重点をおくべきだと考えますか。

「地域の住民がお互いに助け合える仲間づくり」が6割を占めています。また「子どもころからの体験的な福祉教育」が30.5%と前回調査(13.7%)から大きく増え、体験機会の確保など教育への期待が高くなっていることがうかがえます。また「気軽に相談できる相談窓口の充実」も前回調査から大きく増えており相談窓口についての重要性が増していることが考えられます。



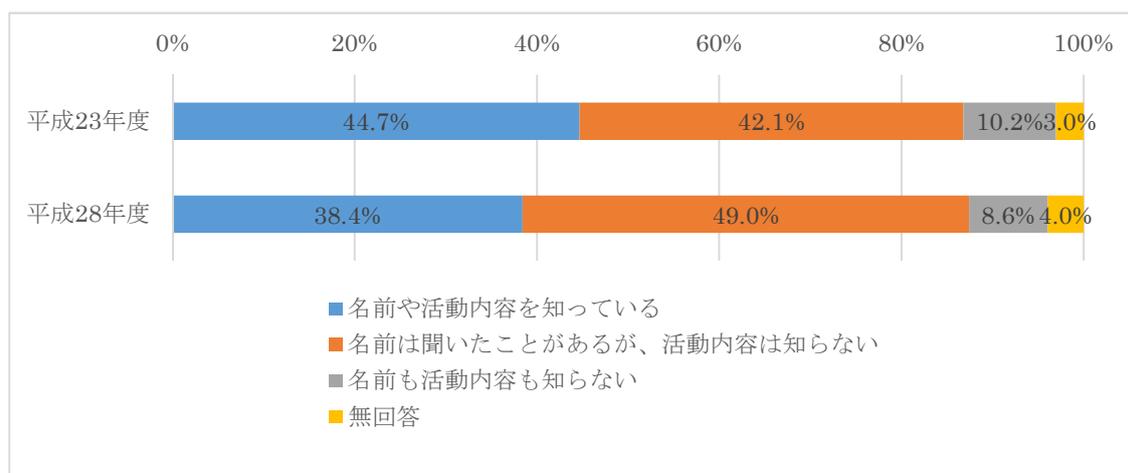
【問17】 あなたは民生児童委員の存在やその活動内容を知っていますか。

民生児童委員について「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」と回答している人は 44.4%と前回調査(44.7%)と比べほとんど変化はありませんでしたが、「名前や活動内容を知っている」と回答した人は 28.5%と前回調査(34.0%)から 5.5%減少しており、より認知度を高める取り組みが必要であることがわかりました。



【問18】 あなたは琴浦町社会福祉協議会の存在や、その活動内容を知っていますか。

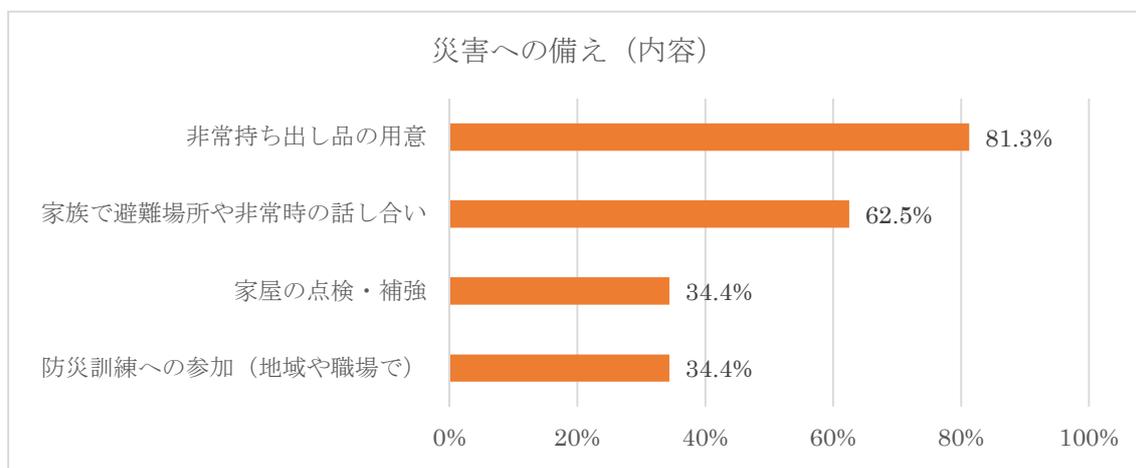
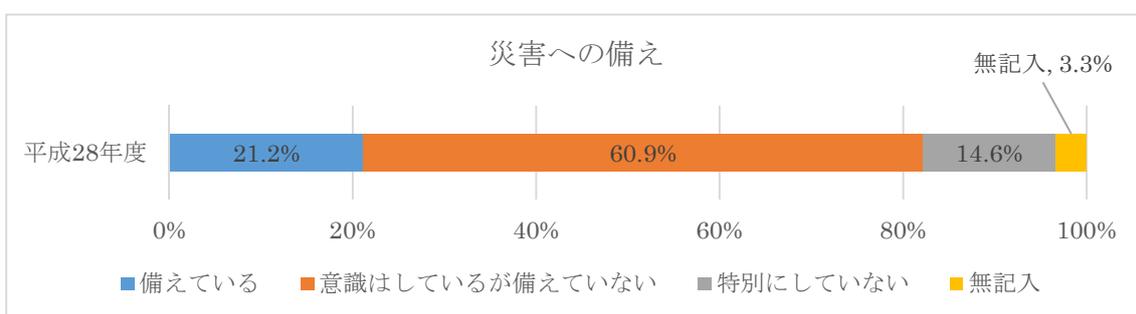
「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が約5割(49.0%)を占め、「名前や活動内容を知っている」は約 4 割弱(38.4%)でした。社会福祉協議会が地域福祉を推進する団体であることを今後PRしていく取り組みが必要です。



【問19-1】あなたは災害に対して、何か備えていますか。

【問19-2】「問19-1」で「備えている」と答えた方に質問です。何を準備していますか。

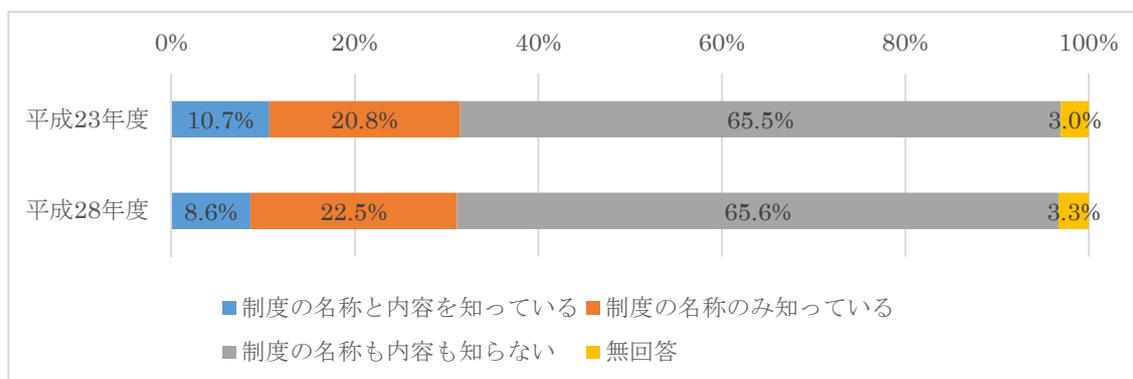
災害に対する備えでは「意識はしているが備えていない」が6割(60.9%)と最も多く、「備えている」は約2割(21.2%)となっています。また「備えている」と回答した人の備えの内容は「非常持ち出し品の用意」が8割を占め(81.3%)、次いで「家族で避難場所や非常時の話し合い」62.5%となっています。意識をしている人は多いものの、実際に備えている人は少ないことから、町として啓発に努めていきます。



(平成28年のみ)

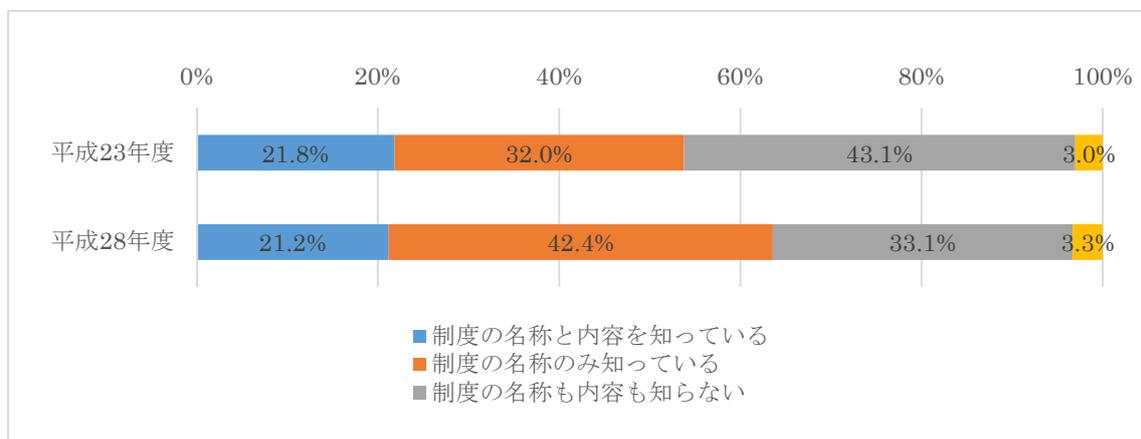
【問20】 あなたは琴浦町災害時要援護者登録制度を知っていますか。

避難行動要支援者登録制度については「制度の名称も内容も知らない」が 65.6%と6割以上を占め、認知度が上がっていない状況となっています。



【問21】 あなたは成年後見制度を知っていますか。

「制度の名称と内容を知っている」は約2割(21.2%)と前回調査(21.8%)から変わっていませんが、「制度の名称のみ知っている」は 42.4%と前回調査より大きく増えています。



■福祉や地域のあり方に関する意見・要望(自由記述)

年代	福祉に対する意見・要望
20代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祖母が通っている温泉プールの券を以前は分庁舎で手続きができたところ、このごろは本庁まで行かないとできなくなり、これは手続きに関わる交通弱者への福祉の縮小だと思うので改善してほしい。 ・ 福祉といえば高齢者に目がいきがちだが、もっと児童や障がいのある方にも目を向けて住みやすく、働く母親が安心して子育てできる環境づくりをもっと事業所等に呼びかけて欲しい。 ・ 障がいのある本人、またはその家族が安心して生活できる制度、仕組みの充実。(障害のある子供の預け先がない。病院がない。) ・ 若い人はあまり福祉を生活の中で意識する事自体が少ない気がする。自分には関係ないだろうと思っている若者にどう福祉に目を向けさせるかを考えた方がいいと思う。 ・ 子どもの遊べる施設が少ない。総合体育館の所(昔遊具があった所)に子どもが遊べるような公園みたいなものを作ってほしい。赤碕のタコ公園も老朽化していて遊びづらいし、駐車場が近いので事故などありそうでこわい。北栄のレークサイドのような広々した公園を作ってほしいです。
30代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震の時、避難が以西の方で成美の方から以西まで上がるまでに、勝田川もあるので、どうなるのか不安で、家に居た方が安心でした。土砂もあるかもしれないのに、避難場所が以西って言うのは、どうかと思った。年寄り、小さい子供もいたら、遠いのに、移動も困難でもっと考えた方がいいと思います。また、地震が来ても避難場所があんなに遠ければ、誰もがなかなか怖くても行けないです。もう少し考えた方がいいと思います。(役場だと、津波がきたらと思うと、不安で行けれませんでした。) ・ 昨今、近所付き合いが希薄になりがちだが、普段からの関わりがないと先の地震などの災害時に「隣のあばあちゃんは大丈夫だろうか」などという意識も生まれないと思う。近所にはどういう人が住んでいるとかくらいは把握しておいて、何かあった時には助け合える意識や地盤を作っていたら良いと思う。
40代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町の施設(介護関係・町営住宅など)の利用の条件がありながら、町職員の本人・家族の利用が優先となっている現状があります。
50代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の皆で地域の人と助け合って生活していきたいと思います。 ・ 普段から近所づきあいはあまりなく生活をしているが、仕事から子どもとつきあう事が多いので子どもたちが今や未来を安心して生きていけるようにとは思っています。私も含めて必ず年をとり、誰かの世話を受けないと生活できない日は来るので、近所でのつきあいは大切にしたいと思っています。子どもも老人も安心して住める地域の事を改めて考えていきたいと思っています。 ・ 以前、介護について相談したいと思っていた時、平日でないと受けつけていただけなくて残念。仕事上、休みをとりにくくて困った。休日でも相談できる窓口を開いてほしいと思

	<p>った。現在はもしかしたら変わっているのかもしれませんが…。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が今の生活をするのに精いっぱい余裕がない。地域の行事、地域の当番制の仕事等こなしている程度です。もっと関わりたいと思っても、やってみたくも思っても、なかなかです。近くにいてもできない父母の世話をさせていただいていること、本当にありがたいと思っています。 自分が得意としている能力を活用して、ボランティアができれば無理がないと思う。 気軽に利用しやすい福祉サービスを目指してほしいと思います。 相談したい事があってもどこに行っても相談すれば良いかわからない！役場に一度行ったらあまり好感がよくなって今後行きづらくなった！親の認知の事とか自分の今後の老後の事とか、まあ終活などや経済的な事とか！
60代	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康は自分で守るように日頃から心掛けています。 例) 定期検診、人間ドック、1日1,000歩ずつ毎日すこしずつ！！ 福祉、何をしても、お金がかかります。役場の予算、ムダの無い使い方福祉の充実に努力してください。 村の民生委員の人が困っている人と相談しやすいようにする。 家族が介護サービスを受けていますが、今後の体調についての不安があり、相談することも出来て安心しています。職員の方の仕事に対しての有り難た身を感じています。 元気な高齢者の方が多く、困り事は少ないかもしれないが、困っていると声をあげにくい環境があるのではないかと。その事が問題。困っていることを役場や社協まで行ってわざわざ相談しなくても同じ部落内でちょっとしたことなら頼める関係、システムがあるほうが利用しやすい。「民生委員さんは1回も来たことないで」と独居老人の方が話しておりましたが、定期的に民生委員さんの訪問があれば安心につながると思う。子どもたちが、大人が普段から声をかけあったり助け合ったりする姿を見ていけば福祉の心は自然と育っていくし、そのことが愛郷心につながると思います。
70代	<ul style="list-style-type: none"> 福祉と言う名の助けを各自が求めるのではなく、個人が先ず健康な体を維持しその余力を活用し、助け合い活動のボランティア等を行う事が肝要ではないでしょうか。上記の意識を学校教育の中での啓発を継続する必要があると有る。 災害発生時における自治会の初動態勢を充実することが人命を救うためには大切なことだと考えています。これまで要救護者の支援態勢を考えてきましたが、プライバシーの問題、支援者の特定などがあり、思うように体制づくりが進んでいません。区の中にある班で見守り等の支援をとることがまず体制づくりの第一歩ではないかと思うようになりました。今後、部落内で話し合いを進めていきたいと思っています。 高齢なのですぐに手助けをしてほしいです。 私の地区の民生委員の方には良く話しを聞いてもらってうれしい事です。 村の人々の話によく聞くのですが、村の人々は個人勝手な考えが多くて人の悪口をいう人が有り不愉快を感じます。特に女性の方が多いようです。

	<ul style="list-style-type: none"> • 1. 「福祉」というものの意味が住民に本当に理解できているだろうかという思いがある。 2. 福祉を推進するポイントは「地縁」にあると感じている。集落の活動を助成する取組が未来を明るくすると感じている。 3. ある程度の認識をもっていると思っていたが用語解説にある3つのことが理解していないように感じたのはどこに原因があるのだろうか……その辺りに福祉の推進するヒントがありはしないか。 4. いろいろな教育の中で「感謝」の心を前面に出した教えが基本になるべきだと感じる。 • 近所同士の話し合う関係はとても大事だと思うが、あくまで相談であって援助までは段々負担になるものだと思うので、援助については組織と家との連携が必須と考える。従って、 <ul style="list-style-type: none"> (1) 近所同士で色々話し合えて、援助が必要かの有無の分かるまで踏み込める。 (2) 援助を要すれば組織に相談する。(本人または隣人) (3) 組織に相談があれば応じて欲しい と思っていますが現在は問題点がなく、とてもうれしいと感じています。 • 民生委員さんの仕事、少しわかりますがどんな時にどんな対応をして下さるのかもっとくわしく知りたいです。 • 各委員はそれぞれ活躍されてるでしょうがどんな内容か詳細が分からない。プライバシーがどこまで守れるか不安。相談相手が地元の人ばかりだと余計に気がひける。各会、各委員の選定(専任)基準が分からない。自助努力している人への理解度、老々介護の実態の理解度、介護認定を受けない高齢者へのごほうび、ふるさと納税金をもっと福祉に組み入れるべき。
80代	<ul style="list-style-type: none"> • 老人ホーム等へ、希望者が入所出来るように、施設の充実を期待します。 • 民生委員の顔と活動が見えない。担当区域内の会合等に積極的に出席してPRし地域福祉の要となって欲しい。任命者なり町当局も指導して欲しい。 • 社協と自治会との連携の強化。福祉委員は現在は自治会の一役員？社協が委嘱して構成員としてはどうか。 • このアンケート調査の集約を町報等で公表して下さい。 • たくさんの空家が有る現在ですが、町に合った起業を起こして若者が働ける様にしたら良いのではないかと思います。 • 最近徐々に個人化が進み、他人のことにはかかわりたくない風潮がこくなってきました(日本全体の傾向と思われます)。近所に住む住人がどんな人柄の人かによって日々の生活がかかわってきます。 • 地域の相互理解、家庭に元気な若者がいない、いわゆる弱者(病弱老化、金銭的な面…等、助けてもらえる手段がない)に対する世間の助け合い、隣り同士の支え合いが必要と思われます(一部弱い立場の人に対する侮辱、暴言もみられる)。 • この間の地震(幸い死者がなかったのですが)、その他の災害時に際して歩けない老人がどうなるか時々不安な発言がそれとなくもられるのを耳にします。もっと情けのある住

	<p>民であるよう心理的啓蒙活動に期待します。</p> <ul style="list-style-type: none">• これからは子どもと離れて暮らしている老人が増えていくと考えます。(同居しようと言っても住み慣れた所が良いといつも言っています。) 母の願いをかなえるための福祉サービス (・遠くから家族が来ていても、一緒にいるとサービスを受けることができない。・入所施設が順番待ち。・家で看とりたいと考えると仕事をやめないといけない) か、難しいと思うが便利に使えるといいなと思います。
--	--